

令和3年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業報告

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和3年度においては、県および甲賀市からの指定管理第4期（5年間）の初年度として、新たに第4期中期経営計画を策定し、管理運営目標の達成に向けて施設の適切な運営管理に努めた。なお、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、本県においても再び緊急事態宣言が発令され、事業の中止や延期を余儀なくされる状況であったが、地元企業との連携による展示イベント開催や、野外展示作品の再構築に着手するなど、陶芸の森の魅力ある空間づくりに向けた新たな取り組みも試みたところである。

また、信楽窯業技術試験場の令和4年度の隣接移転を見据え、より一層の連携を深め中で、試験場の業績を取り上げた移転記念展を開催するとともに、試験場の技術協力を受けてバーチャルミュージアムの充実を図った。

そうした中で、陶芸の森入園者数は、上述のとおり新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、目標値の35万人を上回る352,159人であった。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、来園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。

(1) 陶芸作品の野外展示

陶芸の森の名に相応しく、滞在した陶芸家の創作作品を野外設置し、オープン・エア・ミュージアムとして、自然の中で広く芸術作品を鑑賞できる機会を提供した。

また、次年度から魅力ある展示エリアの再構築を計画的に進めるため、専門家の助言を得ながら準備に着手した。

(2) 窯の広場

穴窯を始め薪窯8基の運用により、つくり手である陶芸家のニーズに応え、活動意欲の向上に繋げるとともに、来園者には活きた薪窯を見学いただき、園内散策のポイントとした。

(3) 花咲く公園

「火鉢ロード」と命名した歩道沿いに、昭和時代に信楽焼の主力製品であった各種火鉢を設置し、来園者にレトロな雰囲気味わっていただくとともに、様々な花木や草花を適切に管理し、四季折々の姿を楽しんでいただいた。

(4) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、園内園芸作業など、ボランティアによる活動支援を受けた。

・令和3年度登録ボランティア数 28人 延べ活動人数 6人

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

やきものファンに信楽をより知ってもらうために、陶芸体験講座として「しがらき学ノススメ」や一般参加型のイベントを開催した。

(1) しがらき体験 しがらき学ノススメ!

ア. 実技講座シリーズ

①特別展「神業ニッポン」連携陶芸体験講座

(壺から飛び出す花・鳥・猫 - 好きなものを盛り付けよう)

壺に花や動物のパーツを貼り合わせて、成形・絵付けを行い、モチーフが立体的に飛び出す作品を制作した。

<開催日> 令和3年5月30日(日) <参加者> 16人

②ミニ窯をつくる

手びねりでぐい呑み数個が焼けるミニ窯を作り、焼成体験とともに窯の仕組みについて理解を深めた。

<開催日> 令和3年12月5日(土) <参加者> 15人

③ラク焼講座 (ラク焼の茶碗をつくる)

赤ラクや黒ラクなどの茶碗を制作し、ラク焼の焼成技術の習得を促した。

<開催日> 令和3年5月16日(日) <参加者> 7人

<開催日> 令和4年3月6日(日) <参加者> 16人

④練り込み技法でうつわをつくる

色土を練り合わせて模様を作り出す練り込み技法により、皿や鉢を制作した。

<開催日> 令和3年6月20日(日) <参加者> 15人

⑤野焼き講座

粘土5kgで壺などを制作し、磨きや野焼きの工程を通じて、野焼きの魅力を探った。

・成形 <開催日> 令和3年6月6日(日) <参加者> 各12人

・磨き <開催日> 令和3年6月12日(土) <参加者> 各8人

・野焼き <開催日> 令和3年6月26日(土) <参加者> 各10人

イ. 穴窯体験講座

信楽町内在住の陶芸家による指導のもとに作品を作り、穴窯で焼成をする体験を通じて、穴窯の知識と技術の普及を図った。

・初級(酒器) <開催日> 令和3年10月17日(日) <参加者> 11人

・初級(干支) <開催日> 令和3年11月14日(日) <参加者> 18人

・中級(水指茶碗) <開催日> 令和3年10月31日(日) <参加者> 6人

・上級(大壺) <開催日> 令和3年11月20日(土)・21日(日) <参加者> 10人

・焼成 <実施日> 令和3年12月9日(木)~12日(日) 窯出し 19日(日)

ウ. 穴窯焼成講座

穴窯体験講座の経験者を対象として、薪による焼成技術の習得を促した。

・説明会 <開催日> 令和3年10月2日(土)

・焼成 <開催日> 令和4年3月17日(木)~21日(月) <参加者> 15人

エ. 登り窯講座

信楽町内在住の陶芸家による指導のもとに作品を作り、登り窯(火袋、一の間)で焼成する体験を通じて、登り窯の知識と技術の普及を図った。

・初級(うつわ) <開催日> 令和3年10月10日(日) <参加者> 6人

・中級(壺蹲) <開催日> 令和3年10月3日(日) <参加者> 15人

・上級(大壺) <開催日> 令和3年10月9日(土)・10日(日) <参加者> 6人

・焼成 <開催日> 令和3年10月27日(水)~31日(日) <参加者> 3組

カ. トレインキルン焼成講座

短時間での焼成が可能であり、アメリカではポピュラーな窯であるトレインキルンを使い、今までとは異なる焼き締め作品の焼成技術の習得を促した。

- ・焼成 <開催日> 令和3年7月30日(金)～8月1日(日) <参加者> 12人
- ・説明会 <開催日> 令和3年10月2日(土) <参加者> 15人
- ・焼成 <開催日> 令和3年12月3日(金)～5日(日) <参加者> 14人

キ. 「京都芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」事業

※新型コロナウイルス感染症予防のためスクーリング自体が中止

(2) イベントの開催・誘致

ア. 第15回信楽作家市 in 陶芸の森の誘致

全国からものづくりに励む陶芸作家を中心に募り、展示即売を行うイベントを誘致し、「市」の賑わいと作家のこだわりのものづくりに触れる機会を提供した。

<開催日> 令和3年7月23日(金・祝)～25日(日)

<主催> 信楽作家市実行委員会

<参加者> 来園者：22,717人(令和2年度：中止、令和元年度：34,179人)

陶芸家等出展：99件、飲食関係出店：9件

イ. 第26回信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

「作品と作家に出会う」をテーマに、県内の陶芸作家や工芸家が制作した作品を販売する場を、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行った上で提供した。

<開催日> 令和3年11月26日(金)～28日(日)

<参加者> 17,939人(前年度30,238人、対前年度59.3%)

・陶芸家等出展：91件 ・飲食関係出店：6件

ウ. 野外音楽イベント「SIVEL WARS」の誘致

※新型コロナウイルス感染症流行のため主催者判断で中止

エ. 第2回しがらき森のクラフトフェスタの誘致

信楽にゆかりのある女性陶芸家やクリエイターが制作した工芸作品を販売するイベントを誘致した。

<開催日> 令和3年11月6日(土)・7日(日)

<参加者> 11,064人 ・陶芸家等出展：43件 ・飲食関係出店：18件

オ. わくわくウォーキング in 陶芸の森の開催

<開催日> 令和3年12月5日(日) <参加者> 30人

カ. 信楽インスタグラムキャンペーンの実施

信楽焼等の魅力を発信することによって、信楽や陶芸の森のファン層形成に努めるため、自然豊かな信楽を素材とした、「インスタ映え」する写真を募集した。

<募集期間> 令和3年4月1日～令和4年1月31日 <投稿数> 125件

<受賞作品> 金銀銅賞各1点/ホームページ発表/陶芸館パネル展示

キ. やきもので繋ぐ JOMON×未来 - 多彩な表現展 2021 -

大型陶板や陶壁、陶板名画を制作する地元企業との連携イベントとして、貴重な文化財の複製品や縄文土器の高精細レプリカ作品の展示、土器制作のワークショップ、3D技術を活用した製作実演等を実施した。

<期間> 令和3年8月21日(土)～9月26日(日)

<主催> 大塚オーミ陶業株式会社 <共催> 公益財団法人滋賀県陶芸の森

<会場> 陶芸の森太陽の広場・信楽産業展示館

(3) 観光および集客促進のための広報活動

新聞広告等の有料媒体を始め、ウェブを中心とした無料媒体への情報提供や、パブリシティ、ホームページの充実を通じて積極的な情報発信を行った。

○主な掲載・放送実績

- ・TVラジオ 14件 『おうみ発630』(NHK)、『よ〜いドン!』(関西テレビ) 他
- ・新聞 29件 『京都新聞』、『中日新聞』、『産経新聞』、『読売新聞』 他
- ・雑誌 37件 『関西ウォーカー10月号』((株)KADOKAWA) 他

○バーチャルミュージアムの充実

ポストコロナ時代に向けて、陶芸館の名品や展示作品を3D・高精彩VR映像で紹介する専用サイト「陶芸館3Dデジタルアーカイブ」を信楽窯業技術試験場の技術協力を得て開設し、令和4年3月5日(土)から公開した。

(4) 地域拠点活用事業

まちなかギャラリーF U J I K I (旧陶喜陶苑) の運営を「F U J I K I 運営委員会」に委託し、地域に根差した施設運営に努めた。

- ・信楽まちなか芸術祭作品展示「アーティストによる信楽の見え方」
＜開催期間＞ 令和3年10月2日(土)～23日(日)中の土日祝日
＜主 催＞ 信楽まちなか芸術祭実行委員会
- ・「谷井直人・藤原純2人展」
＜開催期間＞ 令和3年11月26(金)～28日(日) ＜主催＞ 緋色の商店街

(5) 信楽産業展示館多目的ホールの活用【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい、陶芸に関する交流の場とするため、信楽ホールの活用を図った。

3. 施設の管理

地域の産業振興や文化、観光の拠点として、また、来園者にくつろいでいただける場となるよう、適切な施設の維持管理に努めた。

なお、令和3年度はコロナ禍による休館等は発生しなかったが、台風接近時には災害警戒と来園者の安全を考慮し、休園措置をとった。

- ・臨時休園日 令和3年8月14日・15日

4. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

一層の事業展開が図れるよう、「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付について、各種事業の実施時やホームページなどを通じて周知した。

第2 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

(1) 特別展「神業ニッポン 明治のやきもの一幻の横浜焼・東京焼」

国内に残ることが稀で「幻の陶磁器」と言われている明治期の横浜焼・東京焼を、国内随一のコレクターである田邊哲人氏所蔵の里帰り作品を中心に、日本に現存する優品約140点を一堂に紹介し、超絶技巧で知られる「職人技」の魅力に迫った。

- ＜開催期間＞ 令和3年4月1日(木)～6月6日(日) 《令和2年度から継続》
- ＜観 覧 者＞ 5,097人 (58日間／1日平均88人)

【関連事業】

- ・記念講演会「幻の横浜焼・東京焼—その魅力にせまる—」
＜講師＞ 荒川 正明（学習院大学教授：本展監修者）
＜開催日＞ 令和3年4月25日（日）
＜開催場所＞ 産業展示館多目的ホール ＜参加者＞ 54人
- ・しがらき学連携陶芸体験講座（再掲）
「壺から飛び出す花・鳥・猫 - 好きなものを盛り付けよう」
- ・期間限定メニュー販売「芝生で奇想の和洋 BENTO ピクニック」
＜販売＞ 産業展示館内レストラン（ブラウン・ライス&ウォーター）
- ・ギャラリー・トーク
＜開催日＞ 令和3年5月9日（日）・16日（日） ＜参加者＞ 14人・34人
- ・成瀬誠志「陶製・陽明門」陶片の特別公開
本展を機に、信楽窯業技術試験場が収蔵されている陶片が、明治期の名工・成瀬誠志が手掛けた陽明門の一部であることが判明し、特別展示を行った。
＜場所＞ 陶芸館 ＜期間＞ 令和3年5月14日（金）～6月6日（日）
- ・関連座談会「現代日本の2若手作家×学芸員が語る」（京都新聞連載企画）
明治のやきものの魅力をテーマに、陶芸館ギャラリー企画展「森で生まれた驚きの技」に出品した若手作家2名と担当学芸員による座談会を開催した。

(2)-1 特別展「Human and Animal土に吹き込まれた命 21世紀陶芸の最先端 Part 1 子どもたちとともに」

芸術の中でも原初的な題材である人や動物について、人間の心理や動物の本能を探りながら、スピード感や躍動感、リアリティ感に溢れ、個性的に表現されたアートの最先端を、日本やアメリカ、ヨーロッパで注目される作家たちの作品を通して浮き彫りにした。

＜開催期間＞ 令和3年6月29日（火）～9月5日（日）
＜観覧者＞ 4,276人（58日間／1日平均74人）

(2)-2 特別展「Human and Animal土に吹き込まれた命 21世紀陶芸の最先端 Part 2 アーティストたちに迫る！」

＜開催期間＞ 令和3年9月18日（土）～12月19日（日）
＜観覧者＞ 10,815人（80日間／1日平均135人）

【関連事業】

- ・地元企業連携「信楽高原 山田牧場協賛 POP UP SHOP」
企画展示の「動物」にちなみ、地元信楽で自社製生乳による乳製品を製造販売している山田牧場の商品を陶芸館前で販売した。
＜期間＞ 令和3年10月9日（土）～12月19日（日）（土日のみ24日間）

(3) 信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイルー信楽・クラフトデザインのあゆみ」

戦後、日本では国際競争力の強化を目的にデザイン振興施策が相次いで打ち出され、信楽など陶産地では、日本独特の美意識を活かした「ジャパン・スタイル」が探求された。本展では当時の動向を振り返り、新時代を予感させる「うつわ」を紹介した。

＜開催期間＞ 令和4年3月5日（土）～31日（木） 《令和4年度へ継続》
＜観覧者＞ 1,182人（23日間／1日平均51.4人）

【関連事業】

- ・ギャラリー・トーク
＜開催日＞ 令和4年3月20日（日） ＜参加者＞ 3人

(4) 陶芸館ギャラリー企画展

ア. 陶芸の森で生まれた驚きの技展

<開催期間> 令和3年4月1日(木)～7月11日(日) <入館者> 10,296人

※ 陶芸館展示替えのため、6月8日(火)～27日(日)休館

イ. 子どもたちの土の造形—本物との出会いから展

<開催期間> 令和3年7月17日(土)～8月29日(日) <入館者> 5,808人

ウ. 陶芸の森で生まれた「Human and Animal」展

<開催期間> 令和3年9月18日(土)～12月19日(日) <入館者> 21,767人

エ. 日本六古窯サミット連携パネル展

※ 六古窯サミットが令和4年度に延期になったため中止

オ. アーティスト・イン・レジデンス企画展「台湾の作家たち—陶芸の森×台湾文化センター」

<開催期間> 令和4年3月5日(土)～31日(木) <入館者> 3,063人

(5) 信楽まちなか芸術祭「産地のアーカイブ展 1960-80s」—信楽窯業技術試験場の足跡から

<開催期間> 令和3年10月24日(日)～11月14日(日)うち土日祝日開催

<主催> 信楽まちなか芸術祭実行委員会 <企画監修> 陶芸の森学芸課

(6) 収蔵品収集・管理事業

県の収蔵品収集方針に基づき、質の高い収蔵品収集のため、収蔵品収集審査会および価格評価委員会で審議し、購入作品5点、寄付作品27点を新たに収集した。また、信楽窯業技術試験場収蔵資料のうち、美術的価値の高い作品46点を移管収集した。

(7) 博物館実習受入れ

<実施期間> 令和3年8月24日(火)～27日(金) 4日間

<実習者> 2名(滋賀県立大学・佛教大学各1人)

2. 創作事業(アーティスト・イン・レジデンス事業[AIR事業])

国内外からのスタジオ・アーティストの受入れや、ゲスト・アーティストの招へい等を行い、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させた。

なお、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限措置が執られたため、国内在住のアーティストを中心に受入れを行った。

(1) スタジオ・アーティストの受入れ 35人(延べ49回)

日本-30人(41回)、中国-2人(3回)、台湾-2人(3回)、フランス-1人(2回)

(2) ゲスト・アーティストの招聘(文化庁補助事業枠含む) 5人(国内5人)

① 日野田 崇(京都府)

<滞在期間> 令和3年4月1日～令和4年3月31日(365日間)

《令和2年度から継続中》

<活動概略> 人体をモチーフにした大型作品の成形を行った。

② 湊 茉莉(日本/フランス在住)

<滞在期間> 令和3年4月6日～7月11日(97日間)

令和4年2月23日～3月31日(37日間) 《令和4年度へ継続》

<活動概略> 自身の絵画作品を立体として表現することに取り組んだ。また、泥漿を布に浸して成形する大型作品に挑戦した。

③川尻 潤（京都府）

<滞在期間> 令和3年6月10日～9月30日（113日間）

令和4年2月14日～3月31日（46日間）

<活動概略> ヒーター線を骨格に粘土を巻き付け、構造的な作品を制作した。

④永井 麻紀子（岐阜県）

<滞在期間> 令和3年9月1日～12月27日（118日間）

<活動概略> 紐づくりの合わせ目を残した造形的な器作品を制作した。

⑤竹内 紘三（兵庫県）

<滞在期間> 令和4年2月13日～3月31日（47日間）

<活動概略> 角パイプ状のパーツ複数を鋳込み成型で制作・組み立て作品とした。

(3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会等

滞在ゲスト・アーティスト等によるアーティストトーク 4回

(4) 陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリー等を基点とした情報発信・活性化

アーティスト・イン・レジデンス事業のインスタグラムアカウントを開設し、制作場所としての陶芸の森の魅力を伝え、滞在作家の活動のアーカイブ化と、将来的に滞在を検討しているアーティストへの情報提供に努めた。

(5) 国内外の機関との連携

ア. 海外の機関との連携

文化庁補助事業を活用した、海外のアーティスト・イン・レジデンス機関との交換プログラムにより、3名のアーティストを受け入れた。

①陳 怡恬（中国美術学院） <滞在期間> 令和3年8月1日～20日

②鄭 天雨（中国美術学院） <滞在期間> 令和3年8月12日～9月5日
令和4年3月8日～4月1日

③鍾 雯婷（台南芸術大学） <滞在期間> 令和4年1月15日～3月5日

イ. 国内の機関との連携

文化庁補助事業として、アーティスト・イン・レジデンス研究会を開催した。

<開催日> 令和4年3月8日(土)・9日(日)

<開催場所> 滋賀県立陶芸の森 <参加者> 4機関、延べ21人

3. 子どもやきもの交流事業／「つちっこプログラム」

やきものに関する鑑賞教育や作陶体験など、学校との連携プログラムを展開し、信楽焼を始めとした陶芸文化の普及や、次世代の陶芸の森ファン獲得に努めるとともに、子ども達や障がいがある人の造形活動に対して支援した。

(1) 本物と出合うー総合的学習プログラム事業（宝物づくり事業との連携事業）

・出張授業 128件 6,703人 ・研修会 1件 26人
・ねんどと遊ぶ 4件 126人 計 133件 6,855人

○世界にひとつの宝物づくり事業（世界にひとつの宝物づくり実行委員会）

学校等来園制作・見学、特別支援学校(級)出張授業等 93件 5,174人

(2) 子どもやきもの交流事業および宝物づくり事業の成果展開催

「子どもたちの土の造形一本物との出会いから」展（再掲）

<開催期間> 令和3年7月17日(土)～8月29日(日) <観覧者> 5,808人

第3 産業の振興に関する事業

1. 信楽窯業技術試験場との連携事業（新規）

(1) 試験場移転記念展に併せた取組み

移転記念展の開催を機に、かつて八木一夫や熊倉順吉らが試験場でデザインを手掛けた干支を商品化し、再生産に繋げる試作（ガチャガチャグッズ）に着手した。

(2) 試験場研修生に対する滞在アーティスト等による講座の開催

滞在アーティストのトークショーに試験場研修生等を招き、アートやデザイン感覚の向上を図る機会を提供するなど、相互交流の場を設けて連携を深めた。

- ・アーティストトークショー（陶芸の森主催：計4回） <試験場参加者> 延29人
- ・窯元見学等／釉薬講義（試験場主催：計3回） <陶芸の森参加者> 延17人

2. 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校の各学年生徒に対し、陶芸の森で各種体験授業を行い、信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携して、地域での人材育成に努めた。

ア. デザイン科外部研修受け入れ（絵付け実習）

<実施日> 令和3年10月21日（木） <参加者> デザイン系列3年8人

イ. 野焼き体験実習

<実施日> 令和3年11月19日（金） <参加者> セラミック系列2年30人

ウ. 陶芸の森施設見学

<実施日> 令和3年10月26日（火） <参加者> 1年62人

エ. 作家指導によるやきもの制作

<実施日> 令和3年10月22日（金） <参加者> セラミック系列2年28人

オ. 登り窯焼成実習

<実施日> 令和3年10月29日（金） <参加者> セラミック系列2年31人

3. 若手陶器産業後継者等への支援事業

陶芸館ミュージアムショップの「ガチャガチャ（カプセルトイ）」の商品開発等を目的として、作品を広く募集した。入賞作品については、一定数を購入してカプセルトイで販売し、若手陶器産業後継者等への支援の一助とした。

<募集期間> 令和3年8月11日（水）～12月26日（日） <応募件数> 44件

<受賞> 金・銀・銅賞 各1点 （参考：前年度入賞作品販売実績 142個）

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

- ・特別展「神業ニッポン」（会期58日間）
売上合計 1,307,907円（22,550円／日）
- ・特別展「Human and Animal Part 1」（会期58日間）
売上合計 1,875,161円（32,330円／日）
- ・特別展「Human and Animal Part 2」（会期80日間）
売上合計 3,015,831円（37,698円／日）
- ・信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイル」（会期23日間）
売上合計 369,947円（16,085円／日）